

「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 15 日

事業名称		保健衛生諸費（後期高齢者）〔後期高齢者医療人間ドック等受診料助成事業〕									
予算科目	款 3	保健事業費	項 1	保健事業費	目 3	保健衛生費	事業番号	1			
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの（市の上乗せあり）										
担当部署・課長名	保険年金			課	高齢者医療年金			係	課長名	岩野 秀夫	
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	2 - 5		
【施策名】 社会保障の充実								総合計画書（ページ）	63		
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。				① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）						
	後期高齢者医療被保険者				後期高齢者医療被保険者数						
	→										
	② ①をどのような状態にしたいのですか。〔簡潔に〕				② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）						
2 指標の推移	疾病の予防・早期発見により、健康の保持増進を図る。				人間ドック等受診料助成申請率						
	→										
	③ そのために何をしましたか。				③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）						
	被保険者が人間ドック若しくは脳ドックを受診した際、受診費用の一部として、年度内に一回、23,000円を上限に助成する。				人間ドック等受診料助成支給件数						
3 経費	③				→						
単位		過去2年間の実績		当該年度		成果目標					
		平成31年度実績		令和2年度実績		令和3年度実績		令和4年度目標		令和5年度目標	
対象指標	①の数値	人	11,848	12,026	12,281						
成果指標	②の数値	%	1.4	0.9	1.2						
目標	②の目標値										
目標値設定の考え方											
病気の早期発見につながるため受診勧奨するものの、申請は任意であるため目標値の設定はなじまない。											
活動指標	③の数値	件	169	105	146						
3 経費	事業費（実績）		円	3,882,240	2,415,000	3,358,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,250,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値（退職手当組合負担金、共済費も含む。）				
	財源	一般財源	円	2,194,135	1,467,785	3,191,500					
		特定財源（国・都・他）	円	1,688,105	947,215	166,500					
		（うち受益者負担）	円	0	0	0					
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	時間	968.0	968.0	968.0					
		所要人数（再任用）	時間	0.0	0.0	0.0					
		職員人件費（再任用以外）	円	4,162,400	4,162,400	4,065,600					
職員人件費（再任用）		円	0	0	0						
事業費＋人件費		円	8,044,640	6,577,400	7,423,600						
4 環境変化等	（1）開始年度		平成20 年度								
	（2）環境の変化 平成20年4月の後期高齢者医療制度創設時より、健康の保持増進を目的とし、市独自の事業として実施している。助成額の一部は東京都後期高齢者医療広域連合から補助されている。										

事業名称	保健衛生諸費（後期高齢者）[後期高齢者医療人間ドック等受診料助成事業]			
担当部署・課長名	保険年金	課	高齢者医療年金	係 課長名 岩野 秀夫

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 健康診査と比べ、人間ドックは検査項目が詳細になる分、費用が高額となるため、費用助成する本事業は被保険者から好評を得ている。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☐ 取り組んだ	取組手法：		
	☒ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点			
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容（「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記） 補助金の交付要件として、人間ドックの受診結果をシステム上で管理する必要がある。このため、システムへの入力事務が新たに発生する。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。 システム入力については、人員体制を整え、円滑に実施することができた。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案） 令和3年度から受診結果の提出を求めるようになったことで、この活用方法について被保険者からの問合せが数件あった。受診結果は保健事業に活用し、被保険者の健康保持に繋げることを想定しているため、被保険者にはこれを丁寧に説明し、理解を求めていく必要がある。			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）			
	施策名： 社会保障の充実 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 保健事業との連携や申請手続きの簡素化。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	人間ドックの受診結果を保健事業へと効果的に活用し、被保険者の健康保持に繋げていく。また助成費を申請するためには、申請書、請求書、口座登録依頼書を提出することになるが、全ての書類に氏名や住所等を記載する必要があるため、これが申請者の負担となっており、度々、指摘を受けている。申請者の負担軽減を図る方法について検討していく必要がある。			